

北っ子 敷島北小学校だより

令和6年10月31日 文責 学校長 増坪広夫

大接戦だった運動会

前日まで天候に翻弄された運動会でしたが、当日は予定通りの日程で開催することができました。

今年のテーマは「走れ北っ子 勝利の道をかけぬけろ」で、6年生を中心に競技や係活動等、全校が丸となって取り組めた運動会でした。最終得点が表すように「赤30点」「白30点」の引き分けとなる大接戦で、子供たちも色ごとに団結して全力を出し切った姿が印象的でした。最後の運動会でリーダーシップを発揮した6年生や初めての運動会に張り切って参加した1年生をはじめ、子供たち全員が運動会を通して一回り大きく成長してくれたことと思います。

保護者の皆様には、全校盆踊りへのご参加や温かい励ましの声援や片付けなどにもご協力いただき、改めて感謝申し上げます。



思春期をうまく乗り越えるために

最近になって我が子が親の言うことを聞かなくなったり、何を考えているのか分からなくなってきたりしてきたと感じている保護者の方はいないでしょうか。第二次性徴が始まると心も変化し、いわゆる「思春期」「反抗期」というのが表れます。個人差はありますが、特に女の子はこういった現象が現れるのが男の子よりも早いと言われています。

我々大人も当然のことながら「思春期という時期」を経過して大人になりました。しかし、思春期を迎える我が子に対してどのように接していけばいいのかについては、残念ながら自分自身が経験したこと「経験知」としてしか知識をもっていません。

そもそも「思春期」という言葉は医者が見つけた名称ですが、この思春期には心の問題として明確な4つの特徴があります。

思春期の4つの特徴

第1は、今まですばらしいと思っていた価値観がそうでないという価値観に変わります。

第2は、夢とか憧れに対して強烈に望むようになります。

第3は、本当の友達が欲しくなります。

第4は、自分を受け入れてくれる人を欲するようになります。

たとえば、教師の言うことを聞く事が正しいと思っていた子が、教師の言うことなんか聞かないほうがいい、それがカッコいいというような考えを受け入れてしまうことがあります。今までの価値観とはまったく正反対の価値観の方がよいのではないかということが生じるのです。その程度は様々ですが多くの子にみられる傾向です。また自分にはできないことや自分の先をいっている人を見本として、そういったことをやってみたいといったことを望むようになります。そして自分を受け入れてくれる親友を欲するようになり、人との心の絆を深めたいと強く望むようになります。

この4つ全部ひっくるめたものが思春期なのですが、どの子にも必ずやってくる時期があります。子供にとって大切なこの時期を、うまく乗り越えさせることも大人の使命です。

多様性が注目されている世の中ですが、学校生活においては、基本的な学びに向かう力や生活規律など当たり前のことが当たり前にできることは変わってはいけないことだと思っています。

ところで話は変わりますが、子どもの成長にとって「いいところを伸ばす」「欠点を直す」どちらが大事なのでしょう。民間教育団体T O S S代表の向山洋一氏は次のように言っています。

子供を伸ばす2つの方法、つまり「良いところを伸ばす」「悪いところを直す」のどちらの方法がいいのだろうか。なかには、両方必要といわれる方もいよう。むしろ「よくないところ」を直していくほかないし「よいところ」を伸ばすことにこしたことはない。両方必要だ。ただ「教育の方針」として、どうするかといえば、どちらの方針を1つとるべきなのである。そして結論は決まっている。片方の方針が正しくて、片方の方針はまちがっているのである。次のやり方の、どちらが正しく、どちらがまちがっているのだろうか。 1, 良いところを伸ばす。 2, 欠点を直す。

これは、「良いところを伸ばす」ことが正しいのだ。人間とは、不思議なもので、「良いところ」を認められ、ほめられると、更に努力する。自分にも心地よいものなのだから、「努力する」などと思わなくても努力してしまう。良いところはほめられるとどんどん伸びていくのである。そして「良いところが伸びた結果」として、それまでの「欠点」も少しずつなくなっていく。